

〔様式11〕

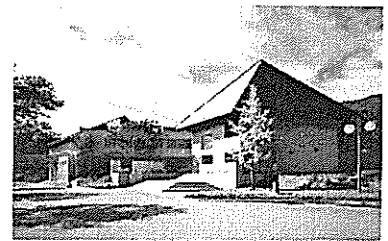
(対象事業：展覧会事業等支援)

事業名：ART Core -appreciation, painting, produce-

鑑賞と創造、美術館の裏方になってみよう！

事業者名：財団法人芸術文化振興会 駒ヶ根高原美術館

理事長 山浦 義人



外観写真

連携事業館等名：NP0 法人 ホットコミュニティ・サポート、駒ヶ根市教育委員会

駒ヶ根市立赤穂中学校、駒ヶ根市立東中学校、宮田村立宮田中学校、伊那市立伊那中学校

伊那市立春富中学校

住所：長野県駒ヶ根市赤穂88

TEL：0265-83-5100/FAX：0265-83-5180

HPアドレス：<http://www.avis.ne.jp/~kkam/>

①施設概要／日本の聖地、駒ヶ根市から全国に文化のうねりを発信していくことを目的とし、1993年駒ヶ根高原に駒ヶ根高原美術館を設立。これまでに多くの展覧会、講演会、音楽会、ワークショップなどを開催したり、同美術館の運営に賛助している。景観、気候ともに最高の立地条件、延べ床面積2,700㎡、多目的ホールを併せ持つ。

②事業の意図目的／美術館はその絵画を通して作家の生き方を見ることにより、作品と自分との対話を得る場所である。その美術館を主体に、光前寺(名刹)、中央アルプス(景観)、駒ヶ根高原美術館(現代)の文化トライアングルがある駒ヶ根市で、教師と連携を取りながら美術館と中学校、双方での授業を行い、中央で活躍する一流の美術専門家(画家・評論家)を招いた三位一体の新しい芸術拠点を形成することを目的とする。本事業では、中学生が作品を鑑賞して心象風景を創作・発表し合うだけでなく、美術館の裏方の仕事を学び、友人達と協力しながら自分の作品を美術館で展示する作業を体験する。美術館の表舞台、裏舞台の両方を学ぶことにより、次世代への芸術活動の担い手として多様な価値観を認め合い、生きる喜びと楽しみを得ることを目的とする。

### ③事業概要

- ◆出前授業／美術館職員が当館所蔵の作品数点を持参し、その作品を鑑賞しながら作品と時代や社会との関わりを学ぶとともに「生きることとは?」「希望と諦観のはざま」「目標と夢」といったテーマのワークショップを行い、美術によって精神の高みと理解を深められるようにする。鑑賞した作品のimaginationを創作し、発表し合う。
- ◆美術館で作品鑑賞、展示についての学習／美術館で解説を聞きながら常設展示作品を鑑賞。出前授業等で制作した作品の中から、意見を述べ合い、展示する作品を選ぶ。その後、美術館の裏舞台として展示の準備を講師より学び、作品の展示に向けて準備を行う。
- ◆作品の展示作業、発表／額装した作品を展示。できあがった展示を鑑賞しながら参加者全員が意見を述べ合う。最後にまとめとして、ゲストの美術専門家より感想を頂く。
- ◆新聞、感想文集の作成／全体を通しての感想文や新聞を作成。作品とともに美術館に展示。
- ◆展示の一般公開／展示した会場を一般の入館者が見られるように公開。中学生がデザインしたチラシやポスターは印刷し、配布および掲示した。

### ④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 新聞(感想文)  
作成した報告書等 冊子、DVD(ビデオ)

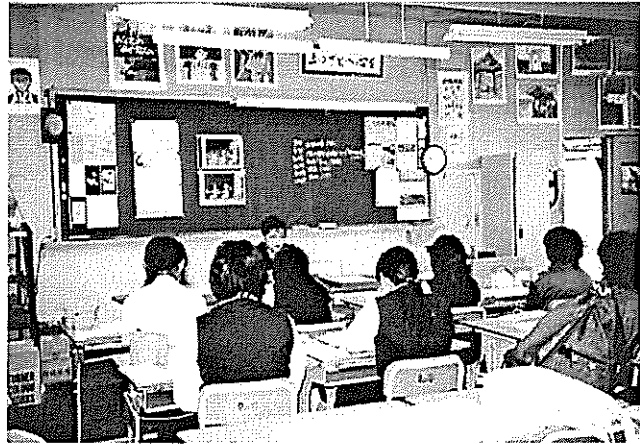
### ⑤参加者状況

参加者人数 述べ 4,369人／内 訳 出前授業 69人、ワークショップ 80人、展覧会 4,220人

## (1) 事業の実施状況について

### ① 出前授業（事業対象外）

伊那市立伊那中学校、駒ヶ根市立東中学校、宮田村立宮田中学校合計3校で行った。3校とも全く同じ内容を行うのではなく普段どのような授業を行っているのかや生徒の人数や男女比、通常の授業の様子、学校側の希望などを教諭と十分に打合せをした上で内容を決めた。



出前授業の様子

美術館の作品を持参したり、具象的なものを描くのではなく心の中からわきあがる内的なものを描けるように抽象的な制作テーマを与え、その場で発表して限られた時間内(15分から20分間)で作品を仕上げる緊張感、など普段の授業の空気とは異なる中、生徒たちには大きな刺激となったようだ。

＜例：普段の授業では絵が苦手という意識があって落ち着きのない生徒が、授業に集中して生き生きと作品を描いていた(教諭談)＞

### ② 美術館で作品鑑賞、展示についての学習

講師には、副館長の松井君子に加え、今井由緒子(造形作家)、岩本拓郎(画家)、滝澤正幸(長野県立歴史館 学芸員)を招いた。

まず常設展示作品よりひとり1点ずつ選択し、作品の解説を行った。作品が大竹伸朗、草間彌生、池田満寿夫など個性豊かなものである上、講師が画家、造形作家、学芸員…とそれぞれ異なる分野の視点での解説を行ったため、参加者には様々な作品の見方を知ることができて興味深かったようである。

展示する作品を100点に絞るため、出前授業などで制作した作品150点を参加者全員で鑑賞。自由に意見を述べ合いながら作品を選択した。直前に行った講師による常設作品についての解説は、絵画の見方として参考になったようであった。

続いて美術館の裏方について、展示に必要な準備や道具などを実演を交えながら解説。続いてポスター、チラシ作成のグループと額装やキ



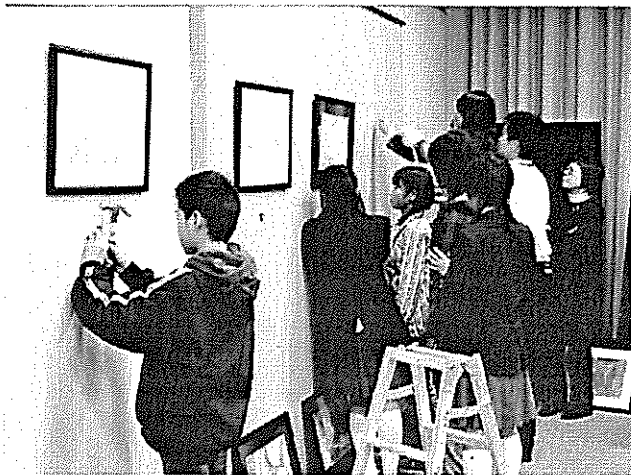
作品展示配置決めの様子

ャプション作成のグループふたつに分かれて講師から学び、作品展示のために準備を進めた。例えば額装にあたり、マットは白・黒2種類を用意したが、それぞれの作品がどちらのマットに入れると映えるかを考えさせたことによって「作品を生かす展示」について学ぶことができたようだ。講師に積極的に

に質問する参加者の姿も見られた。

### ③作品の展示作業、発表

展示する前に、展示の高さや作品の配置など絵の雰囲気やバランスを見ながら自由に意見を述べながら考えた。続いて、二人一組になって高さなどを見ながら展示作業。実際に展示してみると、作品がまた違って見えたようで参加者からは、「こうやってやるんですね」「美術館で作品を見る見方が変わりそう!」といった声が聞こえた。



展示作業の様子

### ④新聞、感想文集の作成

今回のワークショップの感想とともに駒ヶ根高原美術館の作品についての感想を新聞として作成。カラフルな色彩やイラストなどを用いた読んでいて楽しくなるような新聞ができあがった。作品とともに「駒ヶ根高原美術館新聞」として、中学生が展示した会場にチラシ、ポスターの原画とともに展示した。

### ⑤展示の一般公開

中学生が展示した会場を、美術館に来館した方が誰でも鑑賞できるように平成17年11月6日から平成18年1月15日まで62日間にわたって一般公開し、会期中延べ4,220名が来館し好評を博した。美術館の受付では、中学生がデザインしたチラシを配布し、ロビーや館内には中学生がデザインしたポスターをA2に拡大したものを掲示。まさに「中学生による美術館」ができあがった。



展示の様子

## (2) 地域との連携について

本事業は、学校と美術館、そして一流の美術専門家との三位一体の事業であるため、地域の中学校との連携はなくてはならないものであった。過去 13 年間に当館が行ってきたワークショップの実績に加え、駒ヶ根市教育委員会の後援を頂き、さらに文化庁の芸術拠点形成事業ということで、各中学校からの協力も得やすかった。結果、出前授業は 3 校、美術館でのワークショップには 4 校の参加があり、参加者も普段の学校の仲間だけでなく、同世代の異なる学校の生徒とともに作業をやることで様々な面で刺激になったようである。また、地域の中学生が制作した作品を中学生が展示したという新しい試みであったため、地元の人々が大勢来館し、今回の事業が地域の中の学校や教育委員会といった団体のくりに留まらず、一個人にまで浸透したように感じられた。

## (3) 成果物について

本事業のまとめの冊子とビデオ(DVD)を作成。

## (4) 参加者の反応 (アンケートより抜粋)

### ①ワークショップに参加した中学生

- ・ 絵ってというのは、ハートが大切だと思った。絵には二面性があると思う。その二面性が絵の中の「何か」をひきたてているんじゃないのかな。この 2 日間でもとても楽しい発見がありました。絵を見るときに少し見方を変えるだけでいろいろなことが感じられるということを知ることができて本当に良かったです。
- ・ 普段はあまり体験できない美術館の裏方の仕事をすることができたし、絵の飾り方の技法とか色々学べたりできてとても貴重な 2 日間になった。
- ・ とても楽しかったです。一枚一枚絵が違うように、一人一人配置の仕方が違います。美術には数学のような「正しい答え」はありません。そんなところが私は好きです。
- ・ 美術館が身近なものになりました。昔は絵を「眺める」事しかできませんでしたが、今回のワークショップでは作品を「感じる」・作品に「歩み寄る」ことができました。



展示の様子

## ②中学生の展示を鑑賞した来館者

- ・とても楽しかった。感動する作品が何点もあった。僕が思春期だった頃の想いがよみがえってきた。ありがとう。(26歳・男性)
- ・大変に良いことだと思う。平和、未来といったテーマでも作品を描いて欲しい(女性)
- ・同じ中学生として、とてもいい企画だったと思います。ひとりひとり独特な作品ですごいなあと思いました。また、こういう企画をだしてみてもよいと思いました。楽しい作品が見れて良かったです。(15歳・中学生)
- ・中学生の皆さん、楽しかったことでしょう。芸術そのもの、一流品が身近にあることはすばらしいことです。(55歳・男性)

## (5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

事業成果のひとつとしては、美術館と複数の中学校が連携を取ることで、参加者にとって大きな刺激となったこと、そして美術の様々な分野で活躍している方(画家、造形作家、学芸員)を講師として迎え、それぞれの視点の切り口から美術を学べたことが挙げられる。中学生が作品を額装し、展示をするというワークショップは初めての試みであったため、解説方法や進行なども参加者の反応を見ながら臨機応変に対応した部分もあったが、今回の事業をもとにして今後も「中学生による展覧会」を続けていけるように、取り組んでいきたい。